経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県　東松山市

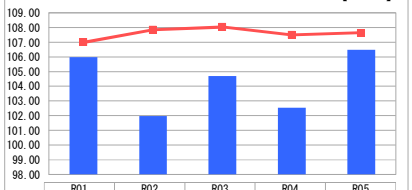
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	76.88	52.89	77.77	2,035

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
91,094	65.35	1,393.94
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
48,061	10.50	4,577.24

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

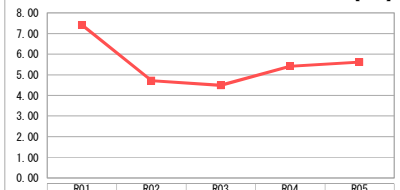
1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)　【105.91】



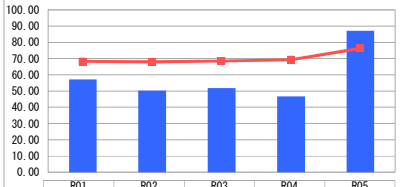
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	106.00	101.98	104.70	102.55	106.49
平均値	106.99	107.85	108.04	107.49	107.64

②累積欠損金比率(%)　【3.03】



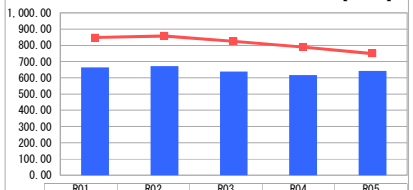
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	7.42	4.72	4.49	5.41	5.61

③流動比率(%)　【78.43】



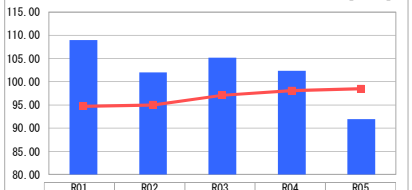
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	57.16	50.24	51.95	46.84	87.27
平均値	68.18	67.93	68.53	69.18	76.32

④企業債残高対事業規模比率(%)　【630.82】



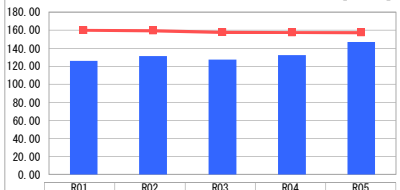
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	665.49	673.08	639.19	616.78	642.32
平均値	847.44	857.88	825.10	789.87	749.43

⑤経費回収率(%)　【97.81】



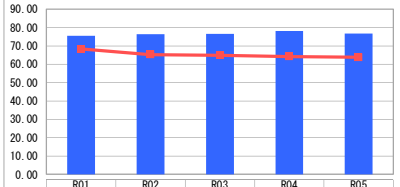
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	109.03	102.05	105.17	102.37	91.94
平均値	94.69	94.97	97.07	98.06	98.46

⑥汚水処理原価(円)　【138.75】



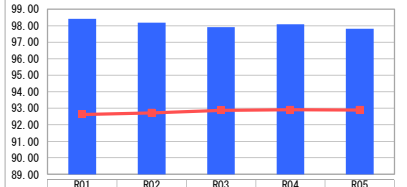
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	126.01	131.43	127.53	132.42	147.16
平均値	159.78	159.49	157.81	157.37	157.45

⑦施設利用率(%)　【58.94】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	75.55	76.37	76.56	78.08	76.66
平均値	68.31	65.28	64.92	64.14	63.71

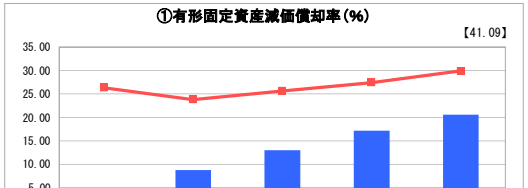
⑧水洗化率(%)　【95.91】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	98.42	98.18	97.92	98.08	97.82
平均値	92.62	92.72	92.88	92.90	92.89

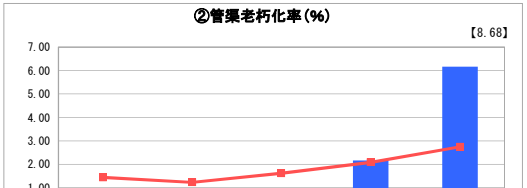
2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)　【41.09】



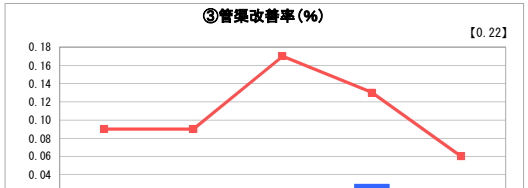
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	4.46	8.72	12.99	17.16	20.62
平均値	26.36	23.79	25.66	27.46	29.93

②管渠老朽化率(%)　【8.68】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	2.16	6.17
平均値	1.43	1.22	1.61	2.08	2.74

③管渠改善率(%)　【0.22】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.01	0.03	0.02
平均値	0.09	0.09	0.17	0.13	0.06

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を上回っているが、経常費用は前年度に比べ、増加している。引き続き財源確保に努める。
②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していないが、引き続き財源確保に努める。
③流動比率
100%を下回っており、経営戦略をもとに、収益性の確保に努める。
④企業債残高対事業規模比率
類似団体の平均値を下回っているが、今後は施設更新及び管渠整備に伴い、企業債の借入が増加する見込みである。
⑤経費回収率
委託料や修繕費の増加により汚水処理費を下水道使用料で賄えておらず、100%を下回った。
⑥汚水処理原価
類似団体の平均値を下回っているが、今後も汚水処理費のさらなる増加が見込まれるため、それに対する財源確保に努める。
⑦施設利用率
類似団体の平均値を上回っている。今後、未整備区域の整備を進めることで更なる利用率の増加が見込まれる。
⑧水洗化率
類似団体の平均値を上回っている。今後、下水道整備を進めるにあたり、速やかな接続を促進する。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体の平均値を下回っており、ストックマネジメント計画をもとに資産管理をしていく。
②管渠老朽化率
類似団体の平均値を上回っており、今後は耐用年数を超える資産がさらに増加するため、ストックマネジメント計画をもとに適切に資産管理をしていく。
③管渠改善率
類似団体の平均値を下回っており、今後は耐用年数を超える資産がさらに増加する。更新事業費の増加が見込まれるため、ストックマネジメント計画をもとに適切に資産管理をしていく。

全体総括

経常収支比率は100%を上回ったが、経費回収率は汚水処理費の増加により100%を下回った。委託料や修繕費の増加により汚水処理費を下水道使用料で賄えていない状況である。

今後は耐用年数を超える資産が発生することによる更新事業費の増加、処理場等施設に係る修繕費の増加等が見込まれる。経営戦略をもとに、下水道使用料を改定することで収益性を確保し、将来にわたり持続可能で安定した事業運営を図る。